



# 2020年日独スポーツ少年団ユースキャンプ (2021年実施) YOUTH CAMP 2021



# 目次

---

あいさつ	・・・P.1-4
プログラム	・・・P.5
2021.8.2(月)1日目	・・・P.6-7
2021.8.3(火)2日目	・・・P.8-9
2021.8.4(水)3日目	・・・P.10-11
2021.8.5(木)4日目	・・・P.12-13
交流テーマ	・・・P.14-17
協定書	・・・P.18-20



泉 正文  
Masafumi Izumi

日本スポーツ少年団 本部長  
Japan Junior Sport Association 1. Vorsitzender

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインというかたちではありましたが、2021年8月2日から5日の4日間にかけて開催した2020年日独スポーツ少年団ユースキャンプ(2021年実施)は無事に終了いたしました。

開催にあたり、ご尽力いただきましたドイツスポーツユーгент、ドイツオリンピックアカデミーの役員・スタッフのみなさま、ドイツおよび日本国内の関係団体のみなさま、日独両国のコミュニケーションの橋渡しをしていただきました通訳のみなさまに深く感謝申し上げます。

2019年5月にドイツスポーツユーгент、ドイツオリンピックアカデミー、日本スポーツ少年団の3団体が協定書の調印をしてから3年の月日を経て開催された本事業は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に実施が決まりました。

そこから開催に向けてドイツスポーツユーгент、ドイツオリンピックアカデミー、日本スポーツ少年団の3団体間で密に連携し、協議を重ね、開催に向けて準備を進めてまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響により東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が1年延期され、さらに海外の観客の受入の断念や無観客開催となったことを受け、残念ながら本事業もオンライン形態に変更となり、実際に対面で交流をすることも競技会場で観戦することもできませんでした。

そのような状況であっても、本事業のテーマである「Creating our future together: Sustainability of Sport～共に未来を形成するスポーツの持続性～」の基、オンラインを通してさまざまなプログラムに取り組みました。

本交流のテーマは、日本とドイツが合同で開催することから、両国の文化・習慣、スポーツ事情等を共に理解し、日本団・ドイツ団一人一人が、多様な価値観を尊重しながら日独両国で作り上げることを重要視しました。また、現代スポーツにおける課題を取り上げ、スポーツが持っている多面的な価値を理解し、考えながら未来における「スポーツの在り方」や「スポーツの価値」を考え、見つめ直すきっかけとなることを目的としました。両国の団員のみなさんは4日間のさまざまなプログラムを通して、活発な意見交換を行い、お互いの考えを共有し、これからのスポーツにとって、とても大切なことを「未来に向けたスポーツ宣言！」として発表してくださいました。

団員のみなさんには、本事業をきっかけに、持続可能な社会の構築に貢献してくれることを心から願っております。また、日独両国の強い絆を今後も大切にいただき、両国の親善により一層貢献していただけることを期待しています。

結びに、本事業の開催にあたり多大なご協力を賜りましたドイツスポーツユーгент、ドイツオリンピックアカデミーの役員・スタッフの皆さま、ドイツおよび日本国内の関係団体の皆さま、本事業のサポートをしていただきました通訳の皆さまに対し、改めて厚く御礼申し上げます。今後の両国の青少年スポーツの発展と友好に結びつくことを祈念し、挨拶といたします。

泉 正文 1



シュテファン・ライド  
Stefan Raid

ドイツスポーツユエгент 本部長  
1. Vorsitzender der dsj



グードルン・ドル・テッパー  
Prof. Dr. Gudrun Doll-Tepper

ドイツオリンピックアカデミー 理事長  
Vorsitzender der DOA

オリンピックユースキャンプは、ドイツスポーツユエгентとドイツオリンピック・アカデミーの歴史において、長い伝統があります。日本スポーツ少年団との交流も同じように長きにわたる伝統があります。すでに1964年の東京オリンピックのとき、日独青少年交流が行われ、それをきっかけにその後定期的にも実施されている指導者交流・同時交流を通じて友好的なパートナーシップへと発展しました。

このパートナーシップは、2020年の東京オリンピックの際にも特別な意味を持ちます。オリンピック平和運動と国際理解の理念のもとに、東京オリンピックと並行して、日独オリンピックユースキャンプの実施を共同で計画してまいりましたが、新型コロナウイルスパンデミックの影響により、東京オリンピックは2021年に延期されました。そこで私たちの期待は膨らみました。一年間あれば、コロナウイルス対策のさまざまな制限も廃止され、大規模な両国間ユースキャンプの実施も可能になるだろうと。しかし、2021年にも対面でキャンプを行うことはできませんでした。

このような困難が続いたにもかかわらず、両国のスポーツ少年団は、いろいろな不安と制限等が溢れるこの時期に、日本とドイツの若い団員に多彩なオンラインによる交流をすることに成功しました。最初の対面の時から最後の「サステナビリティとスポーツ」というテーマについてのグループワークまで若者が積極的に興味を示して参加したことに感動しました。この四日間、交流を深める中で両国の若い参加者は、自分とは異なったものの見方や価値観への基本的理解を模範的に示しました。それと同時に、相手の立場や意見を尊重した上で自分自身の立場を主張することができました。

オンラインオリンピックユースキャンプは、参加者にとって将来、個人生活の上でも、職業またスポーツの分野においても大いに役立ったと確信しています。今後スポーツへの情熱と、スポーツの人と人を繋ぐ力を維持し続け、それを伝え続けるのは彼らユースキャンプの参加者です。そうすることによって、彼らは東京オリンピックの「感動で、私たちは一つになる」というモットーを実施していきます。

日本スポーツ少年団及び泉正文本部長に、長年にわたるパートナーシップ及び素晴らしい協力関係に対して、心より感謝申し上げます。そして、日本スポーツ少年団職員の皆様、日本団長団、通訳者の方々及びすべての参加者にも感謝申し上げます。皆様の多大なるご支援とご協力のおかげで、類のない忘れられない交流となりました。

シュテファン・ライド  
Stefan Raid

グードルン・ドル・テッパー  
Prof. Dr. Gudrun Doll-Tepper



富田 寿人  
Hisato Tomita

日本団団長  
Leitungs des Japan

東京オリンピック開催にともなうユースキャンプの共同開催の申し出がドイツスポーツユーゲントからあったのが、オリンピック開催の3年前であったと記憶しています。日本スポーツ少年団としては初めてのことで少々戸惑いましたが、日独同時交流の長い歴史を持ち、揺るぎないパートナーシップで結ばれた両国であるので、期待感の方が大きかったことを覚えています。その後、何回もの対面やWebでの打合せを重ね、準備を進めてきましたが、新型コロナウイルスのパンデミックのため東京オリンピックが1年延期され、日独ユースキャンプも2021年に開催されることになりました。最後まで訪日による開催を模索しましたが、Webを利用したのキャンプとなりました。準備を進めてきた団員、指導者、事務局関係者にとっては、大きな落胆と不安に包まれましたが、意義ある交流となるようWeb交流の準備を短期間で進めました。両国の関係者の皆さんに心から敬意と感謝を申し上げます。

打合せの過程で、今回のユースキャンプのテーマを「共に未来をつくる：スポーツの持続性」としました。スポーツの持つ効果・可能性は多様で、そこに若者が集うことでさらに大きな効果を生んでいると思われまます。我々がスポーツを通して、未来の社会のために何ができるのか？持続可能な社会の実現のためにスポーツを通して何をすべきなのか？を考え、若者による“スポーツ宣言”をすることを目標としました。これが、これからの行動指針になってくれれば、と願ったのです。そのために、サブテーマとして「新しいスポーツの価値」を掲げ、本来のスポーツの持つ文化的な価値、また手段としてのスポーツの価値、つまり経済や教育のためにスポーツを利用すること、さらにはその他の価値について考察することにしました。その価値を考察する視点として、「インテグリティの視点」「オリンピック・パラリンピックの視点」「日独関係の視点」を設定し、若者の自由な意見交換が行われました。このディスカッションから様々な気づきが生まれ、新たな自分の考えがまとまり、これからのスポーツとの関わり、生活の指針が定まって欲しいと願ったのです。

実際のプログラムは、両国独自の事前研修に始まり、2021.8.2-5の期間にアイスブレイク、各種レクチャー、スポーツアクティビティ、ディスカッションなどが行われました。まさに濃密なプログラムでした。最後にグループ毎にディスカッションの発表会が行われました。この中には、リサイクル、平等、ゴミ、公平な社会、責任感、リスペクト、ジェンダー、環境、教育、コミュニケーション、パートナーシップ、政治力、未来、などなど、様々なキーワードが並び、多彩な意見交換が行われたことがわかりました。この中から、“私たちが行動するんだ”という言葉や想いが伝わってきました。残念なことに、これの一つにまとめることはできませんでしたが、当初の目的である「スポーツを通して、未来の社会のために何ができるのか？」を考察し、その中から「様々な気づきが生まれ、新たな自分の考えがまとまり、これからのスポーツとの関わりや生活の指針が見えてくる」については達成されたように思います。オリンピックは4年に1度ですが、彼らにとっては人生に1度の、素晴らしい時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。

最後になりますが、日独の参加者、指導者の皆さん、dsjおよびJJSAの事務局の皆さん、通訳の皆さん、そしてキルステン団長をはじめとするdsj役員、JJSA役員の皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

富田 寿人  
Hisato Tomita



キルステン・ハーゼンブッシュ  
Kirsten Hasenpusch

ドイツ団団長  
Leitung des DOJL



ゲラルド・フリッツ  
Dr. Gerald Fritz

ドイツ団副団長  
Stellvertretende Leitung des DOJL

ドイツスポーツユース、日本スポーツ少年団、そしてドイツオリンピック・アカデミーが協力し、日独合同のオリンピックユースキャンプを実施しようというアイデアが生まれたのは既に2015年のことでした。その時から、密な交流を行い、お互いに訪問しあったり、合同での準備のミーティングを繰り返してきました。

もともとは、日独両国あわせて100名の参加団員で東京オリンピックに並行して日独スポーツ少年団ユースキャンプを行うつもりでした。しかし2020、2021年には私たちはこれまでに経験したことのない困難に直面しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、オリンピックの延期が決定、日本入国も制限され、オリンピックは結局海外からの観客なしで行われました。そこで、日独スポーツ少年団ユースキャンプの計画も変更する必要が生じ、最終的にはオンライン形態でオリンピックユースキャンプを行うことにしました。このような困難な時期にこそドイツスポーツユースと日本スポーツ少年団の友情が、何度となく私たちに勇気を与え、励みとなりました。この友情こそが、オンラインであっても二国間のオリンピックユースキャンプの計画を進めるモチベーションとなり、それが世界的なコロナパンデミックのような困難な状況にも負けないものであるということを示しました。

„Unity in Diversity“ - 多様性における統一。これが東京オリンピックのモットーでしたが、我々のオリンピックユースキャンプにも最も相応しいモットーです。なぜかと言いますと、私たちは個人的背景も、スポーツの種目、出身や住んでいる場所なども問わず、スポーツを通して一つになってきたからです。9千キロメートルもの距離があるにもかかわらず、私たちは一致団結しました。スポーツ、それが私たちの共通点であり、われわれの共通の言語でもあります。スポーツはグローバルなものであり、私たちが繋いでくれるのです。

このスポーツの人と人を繋ぐ力というものを、日本人とドイツ人が参加するオンライン交流でも経験することができました。最初の出会いから、最後の国連のサステナビリティ目標についての討論までを通じてオリンピックユースキャンプの参加者が、キャンプが進むにつれて一つのチームになっていくことをはっきりと感じることができたのです。

オンラインオリンピックユースキャンプを準備し、実施して下さった日本スポーツ少年団、通訳者の方々、富田寿人団長と日本団長団、及び日本スポーツ少年団泉正文本部長に心より感謝申し上げます。そして、オリンピックユースキャンプに参加し、熱心に課題に取り組み、この交流プログラムを忘れられない素晴らしいものにしてくれた参加団員の皆さんにも心からお礼申し上げます。

キルステン・ハーゼンブッシュ  
Kirsten Hasenpusch

ゲラルド・フリッツ  
Dr. Gerald Fritz

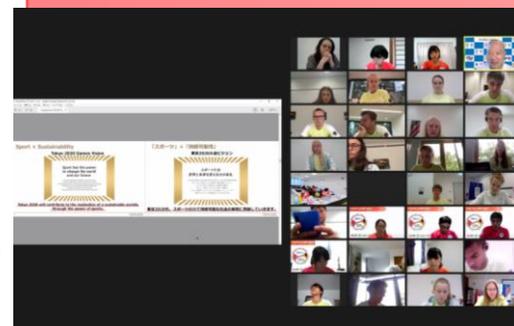
## 2021.8.2(月)

- オープニングセレモニー
  - 日本スポーツ少年団本部長あいさつ
  - ドイツスポーツユーゲン本部長あいさつ
  - 在ドイツ日本国大使館あいさつ
  - ドイツ連邦共和国大使館あいさつ
  - 日本団団長 あいさつ
  - ドイツ団団長 あいさつ
- アイスブレイク
- Getting to know
- 各組織の概要説明
- スポーツアクティビティ



## 2021.8.3(火)

- オリンピック・パラリンピック競技大会に関するレクチャー
- アクティブ チャイルド プログラム
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で掲げる「Sustainability」に関する取り組みについて  
東京2020大会組織委員会からレクチャー
- グループディスカッション
- 各国の文化や伝統に関するレクチャー



## 2021.8.4(水)

- パネルディスカッション  
「Sustainability and sport - the impact of sports on our environment -  
「スポーツと持続可能性 -スポーツがわたしたちの環境に与える影響とは-」
- ヨハネス・ヴァイセンフェルト (Johannes Weißenfeld)
- ウド・ガッテンレーナー (Udo Gattenlehner)
- 行實 鉄平 (Teppei Yukizane)
- スポーツアクティビティ
- 「Fort the Future」に関するレクチャー
- グループワーク



## 2021.8.5(木)

- グループディスカッション
- フリータイム
- スポーツアクティビティ
- プレゼンテーション「For the Future」



## オープニングセレモニー

- 泉 正文  
日本スポーツ少年団本部長
- シュテファン・ライド  
ドイツスポーツユーゲン本部長
- 今福 孝男  
在ドイツ日本国大使館
- イナ・レーペル  
ドイツ連邦共和国大使館
- 富田 寿人  
日本団団長
- キルステン・ハーゼンブツシュ  
ドイツ団団長



## アイスブレイク

Game: Please decide: Either.. or ...

Game: Yes or No

ドイツ団指導者のジャーニン・オンギャート氏のもと全体でのアイスブレイクを実施。

さまざまな2択が出題され、Zoomのリアクション機能や体をつかって回答！



夏季オリンピック or 冬季オリンピック



すし or らーめん



Yes or No

## Getting to know

グループごとにわかれて自己紹介シートを用いてGetting to know！

4日間さまざまなプログラムを行うメンバーについて知り、アイスブレイクを実施！

Icebreak: Teambuilding

メンバー同士の共通点を見つけたり、グループの名称や共通のポーズを考えたり

グループごとにさまざまな方法でコミュニケーションを取りました！



## スポーツアクティビティ

ドイツ団指導者のジャンーン・オンギャート氏によるダンスレッスンは8月2日に実施したパート1と8月4日に実施したパート2を経て完成！



# オリンピック・パラリンピック競技大会に関するレクチャー

オリンピック・パラリンピック競技大会に関するレクチャーを実施！

1964年の第1回東京オリンピック競技大会と2020年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でどのようなことに変化や進化が起きているのかレクチャーを行った。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のエンブレムやピクトグラムがどのようなレガシーのもと誕生したのかをビデオやクイズ形式で学んだ。

**Pictogram ピクトグラム**

1964年大会のデザインをベースに「わかりやすいデザイン」を追求し、ホライズンを目指して作り上げた。  
Based on sports pictograms created in the 1964 Tokyo Olympic Games, we pursued a "design that is easy to understand".  
It was created conscious of the body line.

ホライズンデザインに、競技特有の動きがよりよく見られるように工夫した。  
Each pictogram was made simple and gives the "character" of each sport.

身体で統一したルールは、国際は円形、脚はシルエットを排除し、象徴的な要素を残す。  
Each is created with the simplest graphic components, limbs and circular heads for the most part signifying athletes, along with the characteristic equipment of their sport.

脚と脚で競技の特性を明確に表現することこだわった。  
Each is clearly expressed the characteristics of their sport with arms and legs.

**Medals 表彰式**

**1964 Olympic Games**

**2020 Olympic Games**

オリンピック・パラリンピック史上初となる再生プラスチックで作られた。改修した使用済みプラスチックと海洋プラスチックを材料に制作することで、持続可能な社会に向けた新しいモデルを国内外に発信する。  
It is the first time in the history of the Olympic and Paralympic Games that it is made of recycled plastic. By using refurbished used plastic and ocean waste plastic as materials for its production, it will present a new model for a sustainable society to the world.

## スポーツアクティビティ

### アクティブ チャイルド プログラム(JSPO-ACP)

アクティブ チャイルド プログラム(JSPO-ACP)に関する富田団長からのレクチャーのもと

実際にからだを動かしながら『からだじゃんけん』と『言うこと一緒、やること一緒』を体験！



**JSPO** **カラダじゃんけん**

Program1. Karada Janken (Rock paper-Scissors using body action) / 体じゃんけん

**How to Play**

2. Each pair calls out, "Start from ROCK, Rock-Paper-Scissors, shoot!"  
If both the players choose the same motion, the game goes on to break the tie.  
「最初はグー、ジャンケンポン」のかけ声でジャンケンする。あいごが両方出たときは勝負がつかずまた勝負





## パネルディスカッション

ディスカッションテーマ

Sustainability and sport – the impact of sports on our environment –

スポーツと持続可能性 – スポーツがわたしたちの環境に与える影響とは –

### パネリスト

ヨハネス・ヴァイセンフェルト Joannes Weißenfeld

東京2020大会ボートエイト ドイツ代表

ウド・ガッデンレーナー Udo Gattenlöhner

グローバルネイチャーファンド エグゼクティブディレクター

行實 鉄平 Teppei Yukizane

久留米大学 人間健康学部 スポーツ医科学 准教授

### 司会

カイ・ホッフマン Kay Hoffmann

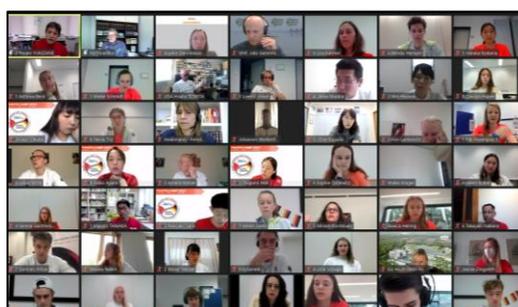
Wilcoディレクター

東京2020大会ボートエイトのドイツ代表で銀メダリストのヨハネス・ヴァイセンフェルト選手をはじめ

3名のパネリストがテーマに沿ったディスカッションを行い、日本団・ドイツ団からの活発な質疑に応じた。

ディスカッションでは、「スポーツやスポーツイベントにおいて持続可能性を実現するためにしてきた経験や今後の希望」についてや、「『スポーツ』と『持続可能性 (Sustainability) 』の両立」について等、さまざまな視点から「スポーツと持続可能性」について学んだ。

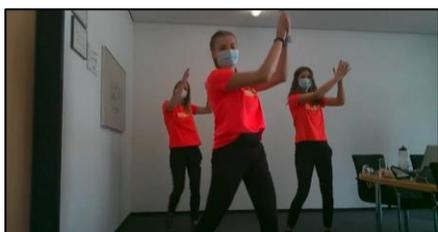
また、ヨハネス選手からは東京2020大会期間中の経験談についても語ってもらうことができた。



## スポーツアクティビティ

ドイツ団指導者のジャーニン・オンギャート氏によるダンスレッスンは1日目の8月2日に実施した

パート1に続いてパート2！前回実施したパート1の内容をおさらいしながらダンスが完成！



## 「For the Future」に関するレクチャー

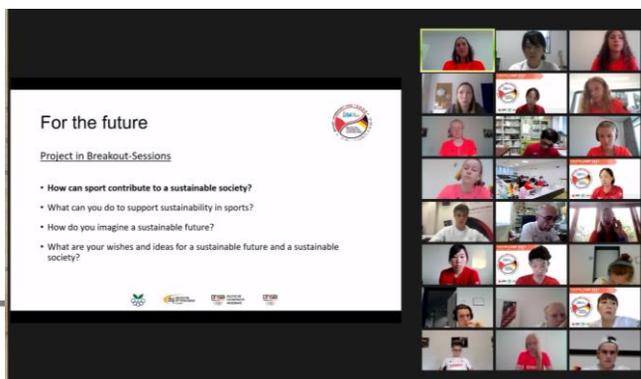
2020年日独スポーツ少年団ユースキャンプ(2021年実施)の交流テーマは、

本交流テーマ

**Creating our future together: Sustainability of Sport – Sport value for the Future-**  
**共に未来を形成する:スポーツの持続性—新しいスポーツの価値—**

日本団・ドイツ団は4日間この交流テーマに関連したプログラムを通して、持続可能な社会に向けたスポーツの役割や「スポーツの価値」を考え、グループ内で自分たちができること、やるべきことを話し合い、『未来に向けたスポーツ宣言!』をプレゼンした。

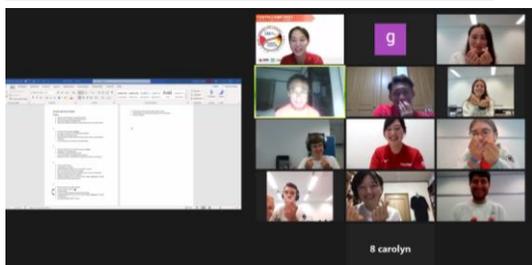
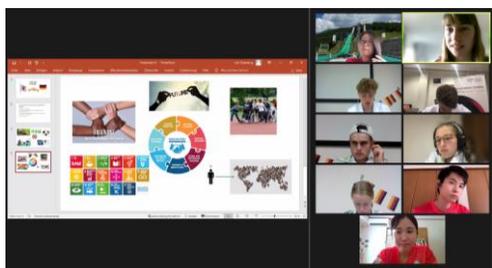
グループディスカッションをはじめる前に、SDGs17の目標や2030アジェンダなど、基礎的な内容やグループでディスカッションする際にトピックになりそうな内容についてレクチャーを行った。



## グループワーク・ディスカッション

レクチャーをもとにグループごとに交流テーマに関するディスカッションを実施!

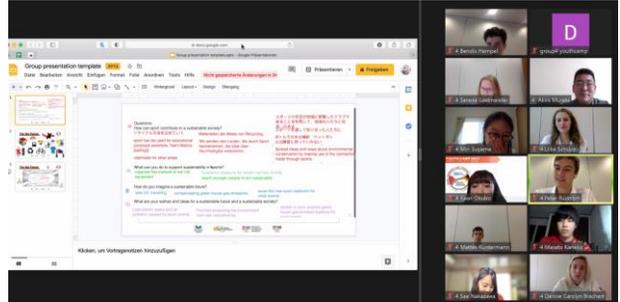
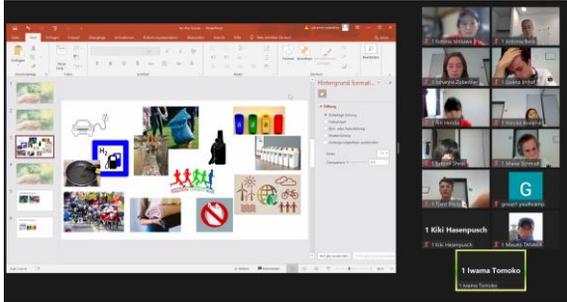
グループごとに活発な意見交換を行い、最終日に行う「未来に向けたスポーツ宣言!」のプレゼンに向けたグループワークを行った。



## グループワーク・ディスカッション／フリータイム

プレゼンに向けてグループごとにディスカッションを行い、最後の準備！

グループワーク・ディスカッションのあとはフリータイムとし、グループごとにSNSを交換したり写真撮影を行うなどグループごとに楽しい時間を過ごした。

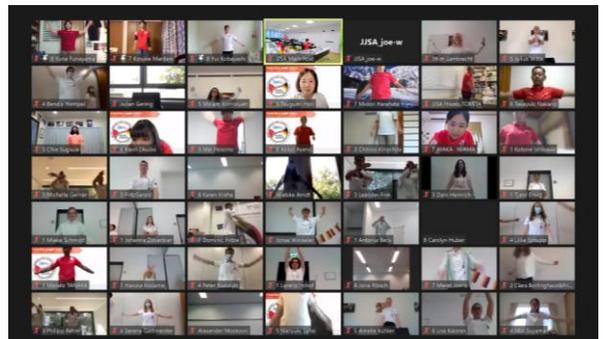


## スポーツアクティビティ

日本団の小林唯さん・船山友菜さん・真利谷公佑さんの3名によるラジオ体操第一！

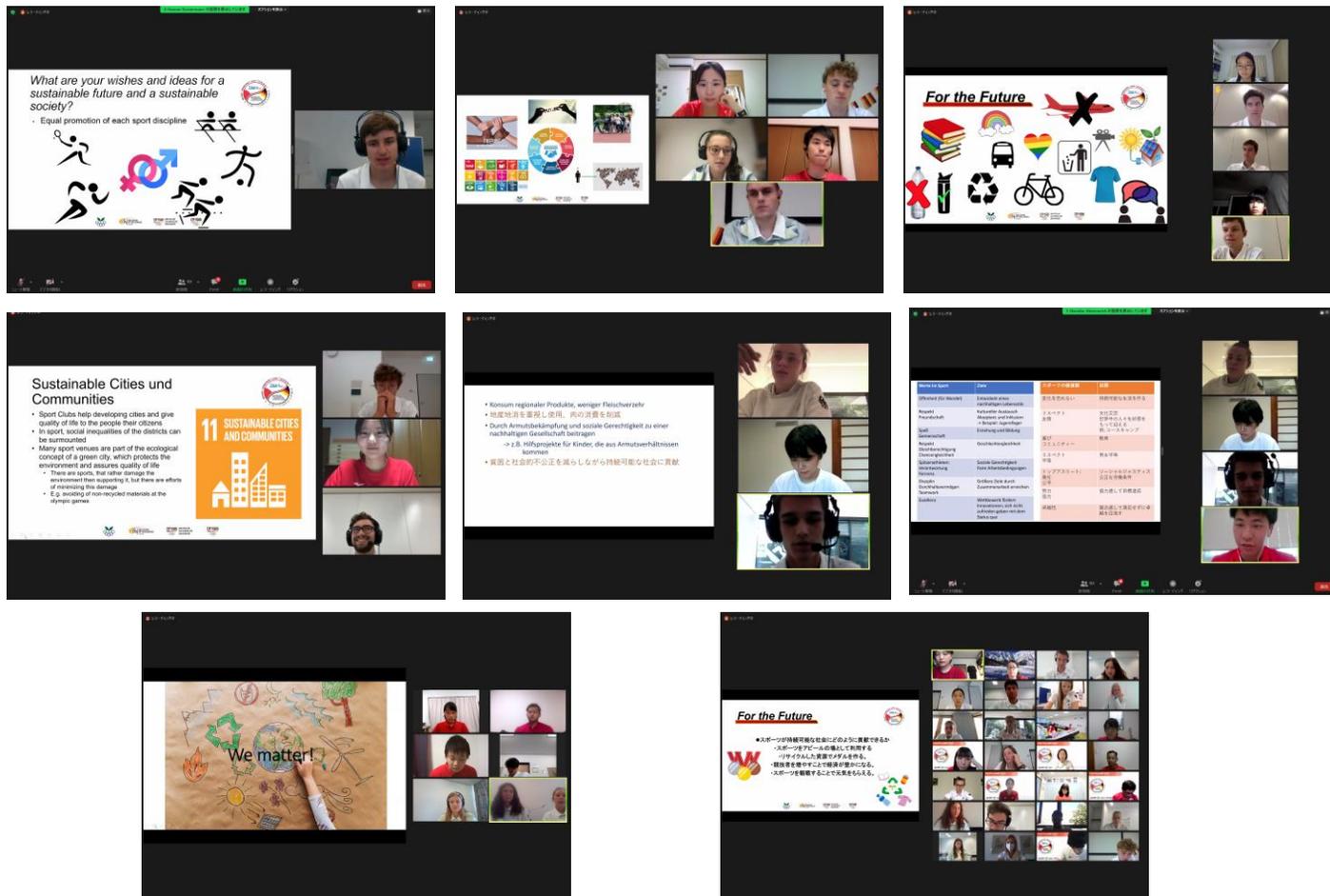
3名のラジオ体操をお手本にしながらドイツ団もはじめてのラジオ体操第一を体験した。

プレゼン発表前にみんなで緊張をほぐしながらからだを動かすことができた！



## プレゼンテーション—For the Future—

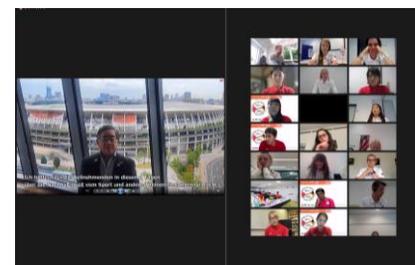
4日間の集大成としてグループごとに考える『For the Future(未来に向けたスポーツ宣言！)』のプレゼン発表を行った。それぞれのグループがさまざまな視点から現状の問題点や改善すべき点について考え、自分たちができること、すべきことを話し合い、共通理解を持つことができた。



## クロージングセレモニー

日本団の富田寿人団長とドイツ団のキルステン・ハーゼンブッシュ団長からグループごとに行ったプレゼン発表『For the Future(未来に向けたスポーツ宣言！)』の講評をいただいた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインでの交流となったが、日本団・ドイツ団は4日間を通して今後、スポーツにとって重要なテーマとなる「スポーツと持続可能性」について学び、自分たちがこれからできること、すべきことについて考え、ディスカッションを重ねた。ここで学んだこと、経験したことをたくさんの人に共有し、新たな発見や学びを通してさらに活躍していくことを楽しみにしています！



### メインテーマ: Creating our future together: Sustainability of Sport 共に未来を形成する: スポーツの持続性

2020年日独スポーツ少年団ユースキャンプは日本とドイツが合同で開催することから、「Creating our future together」日独両国で作り上げることを重要視している。また、現代スポーツにおける課題を取り上げ、持続可能な社会に向けたスポーツの役割について参加者それぞれが考え、未来のスポーツに向けた宣言をしよう！

### サブテーマ: Sport value for the Future ～新しいスポーツの価値～

スポーツの文化的価値

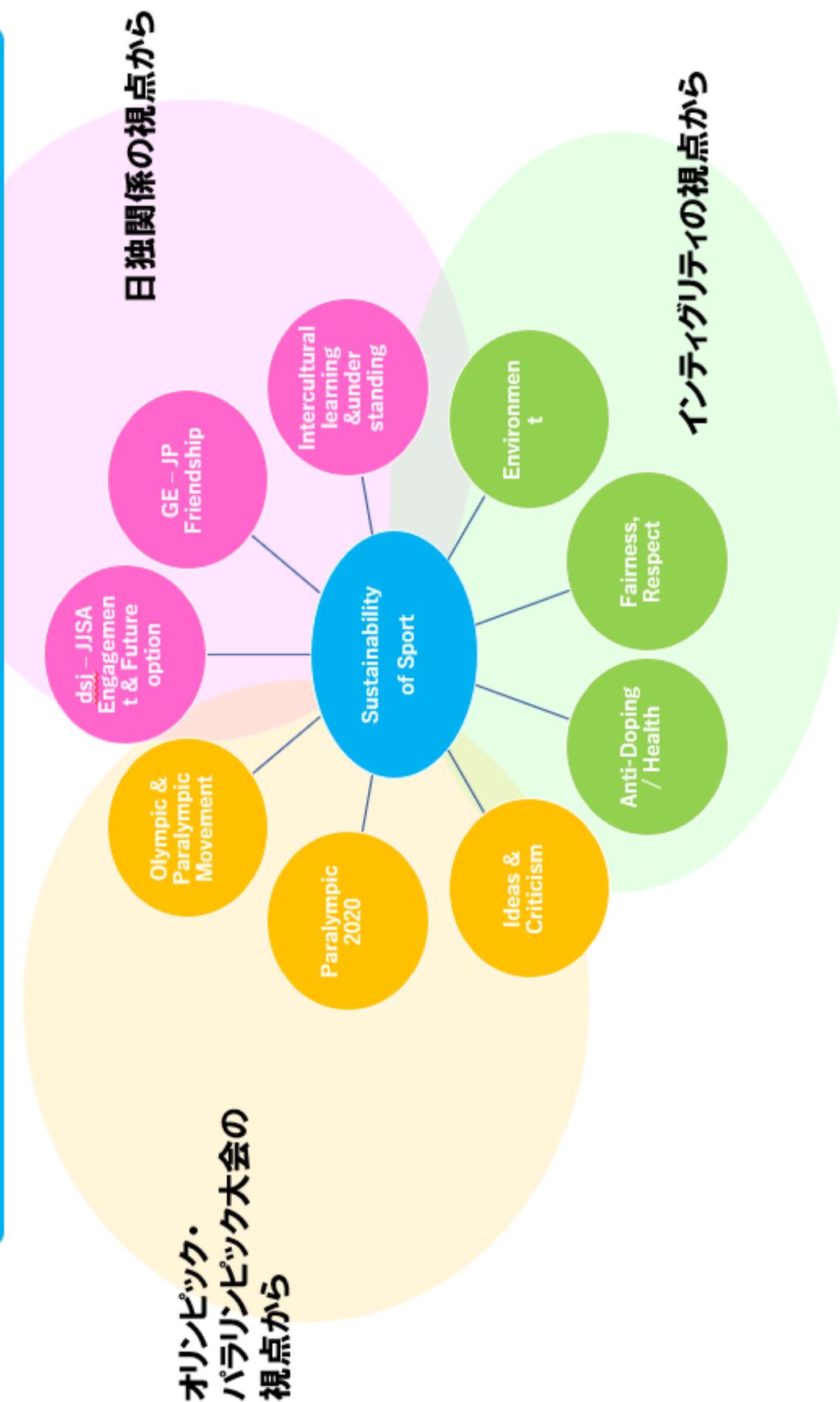
経済的価値 教育的価値

手段的な価値

スポーツには、本質的な価値として、文化的な価値があるが、現代化に伴って、経済的な価値や教育的な価値、つまり手段的な価値が偏重されるようになった。その結果として、勝利至上主義もあると言える。ドイツでは生活文化としてのスポーツが根付いているが、日本では、スポーツの手段的な価値が強調されがちである。

日独のスポーツでの在り方の違いや商業的な面、批判的な面、インクルージョンなど様々な視点から未来における「本来のスポーツの在り方」や「スポーツの価値」を考え、見つめ直すきっかけにしよう！

Creating our future together : Sustainability of Sport  
～ Sport value for the Future ～



## オリンピック・パラリンピック大会の視点から

### ◆ Olympic & Paralympic Movement

オリンピック・パラリンピックの歴史や活動  
オリンピック・パラリンピックの価値や大会の発展などについて学ぼう

### ◆ Paralympic 2020

オリンピック競技大会同様平和の祭典であるパラリンピック競技大会をインクルージョンやダイバーシティの観点を含んで学ぼう

### ◆ Idea & Criticism

スポーツに「功績」や「課題」をもたらしたものを取り上げ、その背景や改善策について考えよう

## インテグリティの視点から

### ◆ Anti-Doping & Health

社会における薬物汚染と  
スポーツにおける薬物汚染について考えよう

### ◆ Fairness & Respect

スポーツは様々な障壁をなくすツールであり、  
その要因となるリスペクトやフェアプレーについて考えよう

### ◆ Environment

スポーツや大会を開催するにあたり環境にもたらす  
影響や原因について考え、スポーツを持続するために  
日常生活から気を付けるべきことを考えよう

## 日独関係の視点から

### ◆ Intercultural learning & understanding

異なる言語をであってもコミュニケーションをとることができる「スポーツ」を通じて交流を深め、互いの文化を尊重し、理解しよう

### ◆ Germany - Japan Friendship

日本とドイツの友好関係、日本スポーツ少年団とドイツスポーツユースの友好関係について考えよう

### ◆ dsj - JJSA Engagement & Future option

長きに渡る日独スポーツ少年団同時交流をはじめとする  
日独交流の未来について考えよう

## 設定テーマのフローについて

【持続可能な社会に向けたスポーツの役割について考えよう】

〈本来のスポーツの在り方〉 〈スポーツの価値〉

😊 **スポーツの功績:** 健康・幸福・多様性・教育・国際交流など

😞 **スポーツの課題:** 商業化・環境破壊・ドーピングなど

設定しているテーマやキーワードの功績と課題について考えよう



スポーツにおける功績と課題を取り上げ、  
これからのスポーツはどうあるべき？  
どうしていきたい？どうするべき？



For the FUTURE!!



『未来に向けたスポーツ宣言』をしよう！



## 協定書

オリンピック大会の目的は、世界の若者を集め、平和的なスポーツ競技を通して、友好、連帯、フェアプレーを目指すことである。この精神にのっとり、長い伝統を誇る日独同時交流を通じた両国の共同活動に基づき、以下三者は 2021 年東京オリンピック大会の際、オリンピック・ユースキャンプ 2020 (2021 年実施) を共同で実施することに同意する。

日本スポーツ少年団 (Japan Junior Sport Clubs Association)

代表者：泉正文 (Masafumi IZUMI) 本部長

ドイツ・スポーツユーゲント (Deutsche Sportjugend)

代表者：ヤン・ホルツェ (Jan HOLZE) 本部長

ドイツ・オリンピック・アカデミー (Deutsche Olympische Akademie)

代表者：グードウルン・ドルテッパー (Gudrun DOLL-TEPPER) 本部長

2020 年日独スポーツ少年団ユースキャンプ (2021 年実施) は共同事業である。

このユースキャンプの実施期間は、2021 年 7 月 22 日～8 月 5 日であり、このキャンプは 2021 年第 47 回目を数える伝統的ある日独スポーツ少年団同時交流と併せて開催される。

### 目的と内容

オリンピック大会を自身で体験し、青少年異文化交流を通じて参加者はオリンピックの理念が持つ特別な効果や国際交流の付加価値を体験する。これは参加者が、(今後も)自身のスポーツにおける目標に邁進し、またボランティア活動への参加とさらなる積極的な活動に励む動機となる。相手国の文化、青少年やスポーツの実情に触れ、習慣や伝統の体験、また魅力的かつ内容あるプログラムを通して参加者は自己形成を強化および発展させる。共通の関心事であるスポーツを通じて、言語や文化の壁を超えた交流は容易になり、オリンピックの理念を発展させることに寄与する。

そのためプログラム内容は、オリンピック競技やセレモニーの見学、文化・政治・スポーツ・青少年などをテーマとした共同セミナーやワークショップ、また文化への理解を深めることを目的とした異文化間交流活動、合同スポーツ活動、両国のスポーツ・政治・社会などの分野における著名人とのイベントである。

### 参加者と指導者

この交流には、両国からそれぞれ 15 歳～21 歳 (日本：2021 年 4 月 1 日現在/特別に参加が奨励される場合は例外あり) / 16 歳～20 歳 (ドイツ：2021 年 7 月 21 日現在) 50 名の青少年 (男女) が参加する。参加対象者は、スポーツの成績および/またはスポーツおよび社会貢献活動により特別に参加が推奨される若手アスリートである。各国の参加者選出は、それぞれ JJSA および dsj/DOA が行う。



参加者は、教育的指導、運営、実施、指導の責任者からなるそれぞれ 10 名の指導者チームにより引率される。両国とも団長、副団長および総務の 3 名から構成される団長団をおく。またチーム内では、重点となる担当役割が分担される。指導者には、異文化に理解があり、青少年指導の経験がある人材を選する。

さらにグループ全体には 10 名の通訳がつく。指導者チームおよび団員の準備に、通訳も参加することが望ましい。

両国の参加者と指導者は、自国での事前研修会に参加する。各国指導者チームはそれぞれ自国で交流準備を行う。

### 宿舎

宿舎は埼玉県上尾スポーツ総合センター（住所：埼玉県上尾市東町 3-1679）とし、男女別、日独混合の部屋割りとする。

### 基本条項

プロジェクト成功のため、基本的な事項を確認する：

言語：プログラムは日本語、ドイツ語、英語で実施し、相手国の言語および英語の使用が望まれる。また交流が確実に行われるよう、通訳を介して参加者が母国語で発言することを可能とする。

多様性とインクルージョン：参加者、指導者の選出やプログラム構成は、各個人の性別、障がい、出自、世界観、年齢、性的指向などを尊重して行われる。また対応可能な範囲で障がいの有無を問わない参加が望まれる。

青少年の参画（決定参加）：ユースキャンプの中核をなすのが青少年自身であるため、参加者にもプログラムの企画構成の決定権ないしは活動の実施や基本的条項の実行にあたって発言権をそれなりに持たせるべきである。

### 協働

以下を参加組織の協働原則とする。

業務言語：業務における言語は英語とし、文面でのやり取りを基本とする。電話またはビデオ・カンファレンスを行う場合は、通訳を用意する。

プロジェクトのコントロール：スケジュールは 2019 年に計画したものを基本とする。その内容は、以下の項目にわたる。参加者の選出と研修、指導者チーム・団長団の構成、宿舎と食事代、備品と経費、移動、内部・外部のコミュニケーション、プログラム構成、チケットの手配。これらは、随時追記、具体化する。



ドイツ側の責任者は dsj 理事会の担当理事であり、基本的事項については dsj 理事会によって任命される実行委員会の補佐を受ける。日本側では、活動開発部会を担当する常任委員がこの任を務める。

各参加組織は、プロジェクトの実務を担当し、英語でのコミュニケーションを行い、迅速に決定し、その決定事項を遂行する事務局担当者を決める。この三者がプロジェクトの中核となり、定期的に、場合によっては他の参加者も含め電話およびビデオ・カンファレンスでプロジェクトの進捗情報を交換する。

費用：旅費は、各国がそれぞれのグループ分を負担する。プログラム費および滞在費に関しては、参加人数の割合に応じてそれぞれが負担する。予算枠は、2018年12月予想支出額に基づき決められた。それぞれの支出額については、協議の上 2021年度予算（2020年8月まで作成）までに決定する。

**その他：**

当協定書は 2020 年日独スポーツ少年団ユースキャンプ（2021 年実施）に向けた作業原則および目的を示す。変更は、各参加組織により承認された上で、それを記録する。

東京/ケルンにて 2020 年 7 月 24 日

日本スポーツ少年団

ドイツ・スポーツユーゲント

ドイツ・オリンピック・

アカデミー

泉正文  
本部長

Jan HOLZE  
本部長

Gudrun DOLL-TEPPER  
本部長